

提案主題 地域連携や学校組織の活性化を図るための教頭の役割  
 サブテーマ ～学校運営協議会の円滑な運営をめざして～  
 協議の柱 地域連携と学校組織の活性化の推進における教頭の役割は、どうあればよいか。

提言者 日出町立大神中学校 藤原 健

## 1 質 疑

- (1) Q 学校支援、地域連携の内容が参考になります。企画や運営を詳しく話して下さい。  
 A 学習支援部長が地域の方で、企画やボランティアの募集をしてくれている。
- (2) Q ボランティアの募集は、別府市の小学校では公民館やPTA役員を通してやっていますが、大神中ではどのようにしていますか。  
 A ボランティア人材の発掘、育成が課題で、現在登録している方の他に、新しくどのように募集するかが課題。
- (3) Q コミュニティスクールの予算は、どのくらい確保していますか。  
 A CSの予算が5万円で、他に特色ある学校作りなどを加えて十数万円の予算がある。

## 2 協 議

- (1) 連携の担当
- ・CSを導入している学校は、地域との関わりが強い学校が多い。教頭が連携の中心である。
  - ・主幹や地域担当が大きな働きをしている学校がある。
- (2) 校内の組織作り
- ・管理職や担当が主に取り組み、他の職員は関心が薄い学校がある。
  - ・初めて取り組む場合、教職員の負担感が大きいだろう。説明を十分して、意識改革を図る必要がある。
  - ・学校内に関連する組織をしっかり作ることが大切である。
  - ・ノルマを決めるのではなく、地域のニーズや要望に応じて対応するのがよいだろう。その方が負担感は少ない。
- (3) ボランティアの募集
- ・コーディネーターがいないので、公民館に依頼して紹介してもらっている。
  - ・CSに取り組んでいない学校は、教育懇談会を組織し、人材を紹介してもらっている。

## 3 指導助言

- (1) 教頭がCSのパイプ役として、各部の取り組みに率先して関わっている。
- (2) 校長や担当職員の役割を明確にし、教頭が担っている仕事を委譲していくのがよいだろう。教頭の役割は、教頭でないとできないことに重点を置くべきである。
- (3) CS担当者を位置づけ、要の職員の下に学年主任を配置するような組織にするべきである。そして、担当職員のCSの仕事をスリム化することが大事である。
- (4) 教頭は校務を整理するが、すきま仕事が教頭に集中する傾向にある。このすきま仕事を整理して職員に割り当て、先生方の力を引き出せば、職場が活性化するでしょう。